

第4回 京丹後市学校再配置検討委員会 会議録

- 1 開催日時 平成20年5月30日(金) 午後8時00分～午後9時35分
- 2 開催場所 京丹後市役所 峰山庁舎 2階 201.202.203会議室
- 3 出席者 高野委員長、大木副委員長、荒田委員、松本委員、小倉委員、坪倉委員
板垣委員、増田委員、本城委員、小牧委員、平松委員、河田委員
谷委員、野木委員、藤原委員、西山委員、沼倉委員 17人
(欠席者) 高田委員、小松委員、平林委員 3人
(事務局) 引野教育長、水野教育次長、高橋教育理事
栗倉教育総務課長、松井学校教育課長、山副社会教育課長
吉田文化財保護課長、米田総括指導主事
数多教育総務課長補佐、坪倉教育総務課主任 10人

4 議 題

- ・ 各町検討分科会の最終報告について
- ・ 各町検討分科会「最終報告」を踏まえた、委員による討論・協議

5 公開又は非公開の別

公開

6 傍聴人の数

4人

7 要 旨

《議事経緯》

(1) 開会

〈教育次長〉

皆さん、こんばんは。それでは定刻になりましたのでただ今から第4回京丹後市学校再配置検討委員会を開催させていただきます。

本日は小松委員さん、平林委員さんからご欠席の通知をいただいております。委員の皆様半数以上の御出席をいただいておりますので、会議が成立していることを確認させていただいた上で進めさせていただきます。

はじめに開会の御挨拶を、高野委員長様よろしくお願い致します。

〈委員長〉

皆さん、こんばんは。本日は第4回目の京丹後市学校再配置検討委員会を開催させていただきましたところ、一日お仕事でお疲れのところ、少し遅い時間ではありますがご出席をいただきまして誠にありがとうございます。それぞれ6町におかれまして、分科会が熱心に協議をされ、7回あるいは8回、網野におきましては12回という形で大変幅広く熱心に分科会で議論をいただき、最終の報告書をいただくという事で、熱心に議論があった中で、事前にお配りできなかった町もございますので、それはまた今日それぞれの分科会の座長さんから最終報告書をいただきまして、皆さま方から熱心な議論をさせていただきまして、そしてまた本日時間を設けるという事で、次回はそれぞれ最終報告を頂いた上で更なる委員の皆様にも検討していただきまして、次回もまた熱心な協議会を開催したいと思っております。よろしくお願い致します。

〈教育次長〉

ありがとうございました。

それでは教育委員会、引野教育長がご挨拶を申し上げます。

〈教育長〉

皆さん、こんばんは。夜分お疲れのところ大変ご苦勞様でございます。昨年7月12日にこの検討委員会を立ち上げまして以来それぞれ分科会におかれましては今、委員長さんのご挨拶にもありました通り、非常に精力的に取り組んでいただきまして非常に幅広くしかも将来を見越した議論をしていただいたという様に聞かせていただいております。予定で1年という様な格好でスタートいたしましたけれども、それ以内でまとめていただき今日の会議を開催できますことを大変うれしく思っております。分科会でいろいろ話し合いを進めていただく中で、市民の中にも大変関心が高まっているというふうに感じております。最初の取り組みもご挨拶で申し上げましたように1ヶ月ぐらいの間隔をおいてやっていただくという事が委員の皆様方が住民の皆様方のいろんな意見を吸い上げてきていただきながら、分科会でご議論をいただくというこういう趣旨でかなりの間を空けながら議論を進めていっていただいたというふうに思っております。私は今までのいろいろ分科会で話し合ってきたいただき、最終的に1つにまとまらなかったところもあるというふうに思っておりますし、最初から両論併記でも結構ですという形で進めていただいておりますので、それはそれとしてこの検討委員会の中で今後、ご議論を重ねていただくという事になることを大変期待をいたしておる訳であります。スタートいたしましたときに申し上げましたように、普通、学校の統廃合というと適正規模という言葉が前面にでてくる訳であ

りますけれども、本市のこの検討委員会の基本は適正規模という児童生徒数に拘らない町づくりや村おこしに繋がるような形での学校の再配置ができれば良いなあという様なことを理想に掲げながらスタートしてきたというのはこの検討委員会の他には見られない特色の1つではないかというふうに思っております。そういった本市の独自の検討を重ねていく中で、この検討委員会で立派な答申をいただいて、それを基にして我々教育委員会の方で原案を作らせていただくという運びにさせていただこうというふうに思っておりますので、本日から分科会の様子をいろいろこのテーブルに載せていただく訳ですけれども、そういった辺りを視野にさせていただきながらよろしくお諮りをいただきたいというふうに思っております。夜分の会合で大変恐縮でありますけれども、どうぞよろしくお願いを致します。

〈教育次長〉

ありがとうございました。それでは次に、議事に入らせていただく訳でございますが、事務局メンバーのご紹介をさせていただきたいと思っております。この春の人事異動によりまして、森本賢一郎教育理事の転出に伴いまして、新しく教育理事として高橋忠彰がこの席に座っておりますのでご紹介させていただきます。

〈教育理事〉

失礼します。この4月から教育理事としてお世話になっております。高橋忠彰と申します。どうぞよろしくお願い致します。

〈教育次長〉

それでは、この後の議事につきましては委員長様より進行をよろしくお願い致します。

〈委員長〉

それではお手元の次第によりまして、進めさせていただきたいと思っております。

はじめに、本日の会議録署名委員の指名をさせていただきます。名簿順位7番目の坪倉委員さん、名簿順位8番目の板垣委員さんを指名致しますので、よろしくお願い致します。

それでは議事（1）の各町検討分科会による最終報告について、を議題とさせていただきます。会議通知を送付させていただきました際に峰山町、大宮町、弥栄町の分科会の最終報告は同封させていただきましたので、ご覧いただいたことと思っております。その後提出がありました網野町、丹後町、久美浜町の分科会については、本日の資料として、最終報告の写しを配付させていただいております。それぞれの分科会の報告を5分以内程度で順次お願いしたいと思います。

まず最初に、峰山町よりよろしくお願い致します。

〈委員〉

峰山町です。今日は座長さんがお休みですので副座長の私が読ませていただいたり、報告をさせていただきます。報告書を見ながら進めさせていただきたいと思います。3月19日最終的に学校再配置最終報告という事で提出させていただきました。19年7月以来7回にかけて、会合を開きまして検討分科会をいたしましたのでその最終報告書を読ませていただきます。京丹後市峰山町の地域には、現在、小学校が6校、中学校が1校あります。本分科会では、児童生徒数の今後の動向や、小学校・中学校の教育内容や教育活動をめぐる諸課題、更には立地条件の環境等諸条件や耐震基準等から見た施設設備等の諸問題を踏まえ、全町域的な視野に立ち、様々な教育的観点から、今後の本町域における小学校及び中学校の再配置に関する事項について検討を行った。合わせて7回分科会の会合をいただきました。最初は、やっぱり自分とこの学校がという声が大きくて、学校が無くなるという事や、それから地域のことを考えますと、やはり統廃合はぎりぎりまで待った方が良いのではという事が出まして、3回目辺りからそれではちょっと先行きならんという事で、子どもたちの将来のことや地域のことを考えたらどうだろうという意見が出まして、5年後10年後、それからもっともっと先のことも考えますと、3回目ぐらいでしたかいろいろ意見がでましたけれど、みんな統合して1校にしてみたらどうかという様な意見が出まして、それは3回目の最後でした。4回目からはその方向に向けて新しい光が射してきたなという気持ちもありましたし、皆さんがそれにいろいろとご意見を重ねて来られて、結局最終的には1校案という事が出て参りました。そして1校にするには沢山の利点があるなという事も、プラスの発想でお話ができたと感じております。(3)の再配置後の学校数について、を見ていただきたいのですが、①からです。1校案になったと先程申し上げました。それからアのところです、ここのところからいきますと5年後の平成25年には町全体で児童数が746人になるという見通しです。そんなことやそれから峰山町は居住地の面積がわりとこじんまりとしておりますので利点大きいこと、それから2校、3校では地域で引っ張り合いになりますし、収拾がつかなくなって1校が良いという事になりました。そんな意見が出ました。それから1校にして、他所の地域に自慢出来るような、また、視察に来られるようなそんな学校にして貰いたいという様なこともありましたし、段階的に2校、3校にしたものを1校にするというよりも、財政負担も大きいので最初から1校にさせていただきたいという様な意見が出ておりました。そして更に、最後の分科会では参加者全員によって早急に小学校を新築して、1校に統合するという意見を統一する

ことができました。更に第6回の分科会では再配置の実施時期として、平成23年を目標にさせていただきたいという意見が出されました。しかし分科会でどれだけ協議を重ねても、市民の人が現状維持に賛成だとか現状を変更してほしくないという意見が多いだらうという意見の中で、今後再配置について十分な広報活動をしていただきたいという意見も多く出ておりました。4ですが、検討結果として延べ7回の分科会における活発な論議によって、論点は出し尽くされたと思われました。議論の過程におきましては、肯定的な意見ばかりでは無かったです。先ほども申しましたようにちょっと早すぎるんじゃないかとか、自分の出た学校が無くなるのは寂しいとかそんなマイナスな意見も出まして、肯定的な意見ばかりでは無かったです。しかし、21人の総意をもって、下記の通りに意見をまとめることができました。(1) 小学校の再配置については、現在の6校を1校に統合する。(2) 統合後の校舎は、町内の適当というのは環境等適切なところが望ましいという意味です。そのような場所に新築する。更に、その施設は、特色のある学校、地域に開かれた学校、安全な学校等の実現可能なモデル的なものとする。(3) 統合を実施する時期は平成23年を目標とし、その実現に向けて早急に取り組を進める等の3点をあげました。そしてまた目的のある再配置を希望したいという事が沢山出ておりました。5番目です。検討委員会への提言要望等、検討結果を尊重し、再配置を進めていただくよう要望致します。特に実施時期については配慮いただきますようお願い致しますという事でした。以上です。

〈委員長〉

はい、どうもありがとうございました。つづきまして大宮町さんお願いします。

〈委員〉

皆さんこんばんは、それでは大宮町の最終報告をさせていただきたいと思います。文書を読ませていただきまして報告とさせていただきたいと思います。一番最初のところは各町同じだというふうに思いますので、割愛させていただきます。大宮町学校再配置検討分科会最終報告、1はじめに、京丹後市大宮町の地域には、現在、小学校が3校、中学校が1校あります。本分科会では、児童生徒数の今後の動向や小学校・中学校の教育内容や教育活動をめぐる諸課題、更には立地上の環境等諸条件や耐震基準等から見た施設設備等の諸問題を踏まえ、全町域的な視野に立ち、様々な教育的観点から、今後の本町域における小学校及び中学校の再配置に関する事項について検討を行ったという事で、2番目につきましては分科会の開催経過であります。委員は全員で12名という事で、分科会は8回行いました。8回目ですとまとめという形で、出席につきましても12名の内、殆ど少ない人数

ではありますが、全員参加という状況でありました。3、分科会における議論、

(1) 大宮町は既に一度統廃合を行っていることを前提に、各学校の現状と課題を踏まえ学校の望ましいあり方について検討を行ってきた。その中で大宮町の再配置についての方向性が4つの案として出てきた。(2) 4つの案について、各学校の配置、規模、先々の事・地域の事、子どもが学ぶ条件等の観点から検討を進めた第一案、再配置は必要なし、ア 大宮町は30年前の統廃合があって今がある。規模の違いはそれぞれ競い合う事や、上下の強い繋がりや助け合いといったメリットとして生かされているので現状のままが良い。イ、小学校は地域との繋がりが重要だと思う。財政的な事を言われれば、市民の負担も考える必要があるが、大きい小さいだけでの統合は納得できない。将来を担う子どもや地域のことを考えると現状の配置が必要ではないか。ウ、地域が廃れることに歯止めをかけたいという気持ちが強く、学校が地域に残って欲しい。第二案、第一小学校は現状維持とし、第二小学校と第三小学校の2校の再配置、ア、現状のままでは、第二小と第三小学校の維持に財政上相当の負担がかかる。1つにまとめてそこに予算をかけた方が良い。イ、第三小学校では児童数名の修学旅行に複数の教員が引率している。修学旅行一つを取っても、町内で児童数のアンバランスがある。何とか解決できないものかと思う。ウ、親の立場では地域のことをいろいろと考えるが、統廃合経験者として、子どもの立場では置かれた環境への順応性が高く何の問題も無かった。エ、学級の適正人数は何人なのかといった問題があるが、多くの友達と出会い成長することはいろいろなことを経験するチャンスが多いのではないかと思う。少人数過ぎると経験が少なくなるのではないかという不安がある。オ、通学の方法・安全が保障されるのであれば、第二、第三小学校で150人程度の規模の学校になり人数としては適正な人数ではないか。第三案、第一小学校の分割、ア、規模が大きくPTA活動等が進めにくく、分割することも考えられる。イ、全国的に見ればもっと大きな学校はあり、第一小の分割は現実性が乏しいと感じる。第四案、大宮町内1小学校、1中学校、ア、1校にするという事は、第一小学校は耐震補強を済ませたばかりで増築しかない。しかし、PTAが集まる時も大変で学校行事等でも支障をきたす問題が多々あり、既存の施設を利用する1校案は無理。イ、長い目で見れば1校にという事になるのだろうがそれはもう少し子どもの数が減った段階で考えたらどうだろうか。4、検討結果(論議の到達点)ということではありますが、8回の検討分科会を開催する中で、地域から学校が無くなることへの危機感がうかがえる意見が度々出てきた。それは何度議論を重ねても打ち消すことのできない思いである。しかしいつまでもそうあり続けること

は難しい。一方、適正人数の中での子どもにとってより良い環境について議論する意見も多く出てきた。財政的な問題も踏まえ、概ね段階を追った統廃合ならばやむを得ないといった意見もあった。結論として、委員12名の意見を1つにまとめることは難しく、大宮町の検討結果を下記の2案併記とする。(1)大宮町は既に統廃合を行っているので、現状では再配置はしない。将来的に現状より児童数が減少した段階で再配置をする。(2)大宮第一小学校は現状どおりとし、第二小学校と第三小学校2校の再配置を行なう。5、検討委員会への提言・要望等という事で、再配置にあたっては、通学の方法・安全の確保を必須とし、地域住民にわだかまりが残らないよう準備段階を十分に設けていただきたい。という事で、以上で報告を終らせていただきます。

〈委員長〉

はい、ありがとうございます。それでは次に網野分科会さんお願いします。

〈委員〉

それでは網野の分科会の報告をさせていただきます。はじめにのところから入らせていただきます。京丹後市網野町の地域には、現在、小学校が6校、中学校が2校ある。本分科会では、児童生徒数の今後の動向や、小学校・中学校の学習環境をめぐる諸課題、更には立地上の諸条件や耐震基準等から見た施設設備等の諸問題を踏まえ、全町域的な視野に立ち、様々な教育的観点から、今後の本町域における小学校及び中学校の再配置に関する事項について検討を行った。2番目のところは委員数24名、出席者数の方はご覧の通りです。12回の分科会を開催いたしまして、最終的には1つの意見にはまとめられませんでした。方向性としてあらかた委員の方の、こういう意見を持って行ってくれということまでまとめあげをしました。3の分科会における議論としましては、網野町における学校再配置の是非について議論し、現在2校ある中学校について先に検討し、中間まとめとして報告した後、6校ある小学校について再配置を検討してきました。中学校再配置の是非についてはここの文面を見ていただいたらありがたいと思いますけれども、網野においての分科会は各小学校、中学校から委員の方が出ていただいておりますので自己PRを踏まえて現在、自分のところの学校の特色ですね、そういうものを話していく、それから人数の多い、少ないもあると思うんですけれども、やっぱり少なくとも多いところに負けないだけの学校と言いますか、PTAの活動を行う中で子どもたちが健全に教育を受けられる場が持っているのかというのが正直な意見で、そういう事が頭の中にありますので個々のPRをする中で、現状のままだと良いというのがすごい意見として前提にありまして、

そういうものがある中で検討を進めていきました。特徴的意見としましては、合併して市になったのに旧町にこだわっているのではないか、まず統合ありきではないか、統合すれば通学に時間がかかり学習や塾に時間や余裕が無くなる。小規模校と大規模校のメリット、デメリットを話す必要がある。このことは小学校、中学校どちらにもある。網野の町域では橘中学校は網野中学校に行くことになる前提の話になるが、橘の教育環境は違うのでこのままで良い。義務教育の間は徒歩か自転車で通学出来るのが良い。あと2校の大きな違いは教員数とクラブですね、それが専門外の教科を受け持つ先生が橘中学には多いのではないか、あと橘中のPRとしてクラブ活動、人数的なものがありますけれども一番最後の1学年が20人を割るようになると部活動やその他のことにも男女比が影響してくると統合の限界かなという事が中学校の議論の中では出てきておりました。2つ目の小学校の再配置の是非については、現状での存続の意見が強かったという事で、特徴的意見としては財政上の問題もあると思うが小学校は歩いて通えるのが基本と思う。学校が無くなるとか地域が寂れるとかは二の次で学校としてのあり方を話してはどうか。今の施設を活用することを前提に話をするには無理がある。校舎の新しい三津や郷の小学校もある。出来るだけ残して欲しい。各校区ごとに地元の委員が意見を述べ、その後全体で質問を含めて検討しました。特徴的な意見として、いろいろな意見が出ておりますが、学校内の施設、人数の関係、学力の事、それから交通確保の関係この辺も踏まえる中での議論をしてきました。(3)その他のところに、網野北小は海に面してしまして、塩害がひどくてこの先大きな改修等が必要になるであろうと、島津小や橘小の児童は、校区内でもヘルメットをかぶって自転車に乗っているが、旧の網野の街では殆ど着用する姿が見えない、この辺に保護者の考えにも差を感じるという事が出てまいりました。それから南北の小学校を統合するにしても、元の場所の体育センター付近は、水害対策を考えると適当ではないという意見が出ておりました。検討結果としまして、議論の到達点、中学校につきましては、現在2校ある中学校を存続させることがまずは望ましい。橘中学校につきましては小中一貫校という、こういう特色のある場所を設けてほしいという意見も出ておりました。それからイの方の、但し生徒数が著しく減少する状況が続く時期には、網野中学校への統合も止むを得ないと、クラブ活動、男女比も考慮して1クラスが20人を割り込む時期が、再配置の実行の時期と考えざるをえんのかなという様なことをちょっと具体的な数字も出しながら検討しました。あと特に再配置につきましては、通学の利便性、安全性の他、経済的負担の軽減に配慮した通学方法の確保が必要という事が中学校の方で出てました。2番目に小学校につき

ましては、これもアの方からいきますけれども、現在の小学校6校を存続させることがま
ずもって望ましい、しかし、児童数の減少等による複式学級の問題等を考慮し再配置を考
える場合には、アの第一段階としましては現在6校ある小学校の内、橘小学校は現状の通
り存続させる。他の5校の小学校については、網野北小学校・網野南小学校・島津小学校
の概ね3校にまとめる。島津小学校については、耐震強度の問題がありますので、新築す
るか、または可能であれば補強工事等によって安全性を確保する。(イ)としまして第二
段階として、南北の小学校を再配置し、橘小学校、島津小学校を含めた1校とする。橘小
学校については、中学校の再配置計画の進行に合わせて、同時に再配置されることもあり得
る。島津小学校は、複式学級が取り入れられる児童数をめどに統一した学校への吸収統合
を考慮する。再配置を進める上での条件については、校舎についてと、それから通学、跡
地の活用という事で上げております。具体的に校舎につきましては南北の小学校をかため
て1校に持って行くのであれば新築という事になりますが、桃山、網野駅周辺という格好
になります。それから通学についてはとりあえず安全の確保が第一という事をここで申し
上げたい。跡地の利用については学校施設が地域の避難場所そういう様なものに各地域住
民の方へ地域が活性化になるように利用していただきたいと思います。あと検討委員会へ
の提言といたしましては、この分科会での検討結果を尊重していただき、学校再配置の実
施に当たっては、通学についての安全確保の他、実施時期については地域住民との十分な
協議を行い理解が得られるようお願いしたく提言・要望を網野町のまとめとさせていただきます。
この検討の中で、ずっと頭にありましたのは、あくまで既存の施設を如何に有
効に使うかという事で、南北を合併するとどうしても新築がいるんですけども、そこに
いかに既存の施設で何処まで吸収できてくるのかそれがいつ頃の人数の目安になるかとい
う事を網野町の分科会の中ではそこを押さえながら検討をしてきましたので小中両方とも、
複数ありますけれども回数も沢山になったのもその原因の1つでもあります。以上です。

〈委員長〉

ありがとうございました。それでは次に丹後町お願いします。

〈委員〉

丹後町は、はじめにですけれど、京丹後市丹後町の地域には、現在、小学校が4校、中
学校が2校あります。本分科会では、児童生徒数の今後の動向や、小学校・中学校の教育
内容や教育活動をめぐる諸課題、更には立地上の環境等諸条件や耐震基準等から見た施設
設備等の諸問題を踏まえ、全町域的な視野に立ち、さまざまな教育的観点から、今後の本

町域における小学校及び中学校の再配置に関する事項について検討した。2の分科会の状況でございますが、委員は18人、第1回から第7回までありまして、最後の第7回の分科会におきましては、各学校の再配置のアンケートを小学校、中学校に取っていただきまして再配置が必要かどうかという事をPTAの保護者に投げかけました。それも全学校合わせて分科会における議論をさせていただきました。中学校の再配置についてです。子どもの成長の為には、人数の多い中で切磋琢磨させることが大切です。部活の問題、行事の取り組みなどを考えると、1校にしたほうが良い。少人数でも工夫次第でその特性を生かした行事や、学習が出来る。今まで通り2校で良い。宇川中学校は、生徒が少なくなっているの、間人中学校と一緒にするのが良い。しかし、その場合には、他町に比べて大きな峠があり、距離も長いのでスクールバス等の整備の問題がある。現在の間人中学校の校舎は立地条件が悪く水害にあう。また、建物が古いので統合する場合には、新しく建設する必要がある。中間点である竹野地区周辺へ建ててはどうか。間人中学校の校舎の問題を考えると、宇川中学校の校舎はまだ新しいので、宇川中学校へ統合する方法もある。学校は本来、自分の力で行ける範囲が望ましい。地域の文化の中心、発信の場であるので今まで通りが良い。宇川は保育所が統合し、保育所から中学校まで同じ顔ぶれで学ぶことになり、人間関係が心配。また、宇川中ではクラブの選択ができずかわいそうだ。小学校の配置について、竹野小学校は人数が少なく、複式の学級もあり保育所も間人保育所に行っているの、間人小学校と統合した方が良い。早急な問題である。子どもの減少を考えると、スクールバスを配置して、宇川地区に1校、間人地区に1校が良い。間人小学校が現在の位置のままであるならば、豊栄小学校は残してほしい。小学校は出来るだけ近くが良い。近くに学校があるという事は、いろいろな面で大切である。地域の学校が無くなるという事は、地域の声や子どもの声が聞こえなくなる。竹野小の統合は保護者の半数以上が賛成しており、反対は1割であった。統合の場合は現行の丹海バスでなくスクールバスを出してほしい。そうなれば、統合先は間人でなく豊栄小という選択肢も出てくる。3、地域の学校としての問題、学校は地域の中心であるので少ないなりの良さを生かして現状を存続する。学校は安全で災害時の拠点であるので、出来るだけ近くにあるのが望ましい。学校施設は地域活動、地域の文化の拠点であるので現状が良い。検討結果です。議論の到達点。竹野小学校が間人小学校又は豊栄小学校へ統合することは、ほぼ全員一致しました。小学校2校案については、統合して新しく学校を建てない場合には難しい状況である。分科会としては、3校で一致しました。中学校1校案については統合、現状維持の両論の意

見が均衡しており、何処まで行っても平行線である。5、検討委員会への提言、要望等、再配置にあたっては広く広報し、住民の意見を聞いて進めていただきたい。以上が丹後町の再配置の最終報告です。最後の第7回の再配置のアンケートを取っていただいた結果なんですけど、内容的にはこの分科会で話した意見が殆どでした。私たちとしては、もっと新しい展開を考えていたのですが、峰山町さんみたいな熱い意見が出ず、検討結果が以上の結果になりました。ありがとうございました。

〈委員長〉

ありがとうございました。続きまして弥栄町さんお願いします。

〈委員〉

失礼します。弥栄町です。平林委員長さんが欠席なので代読させていただきます。弥栄町学校再配置検討分科会最終報告。はじめに京丹後市弥栄町の地域には、現在、小学校が5校、中学校が1校ある。以下は同じですので省略させていただきます。2、分科会開催経過、委員数が17名。第1回が平成19年7月12日から始まり、第8回までありまして平成20年4月14日で終わりです。分科会における論議と経過です。弥栄町における学校再配置の是非について論議し、中学校については現在1校であることから現状のままとすることとし、5校ある小学校について再配置を検討した。(1)学校再配置の是非について、資料を見ていただいたら良いかと思えます。次に適正だと思う小学校数について、これも資料を見ていただけたらと思えます。登下校について、次に学校施設についてがありまして、その他もあります。そして検討結果(論議の到達点)です。ここへ入っていただきます。合計8回開催した分科会において、当初は再配置に否定的な意見もあったが、子どもの将来を考え、今後の児童数・生徒数を考慮し検討した結果、17名の委員の総意によって下記の通りまとめることができた。(1)再配置後の学校数について、現在5校ある小学校を1校に統合すべき。(2)上記の理由、小学校は新築で1校にすべきだが、現在の施設を有効に使い、方向性を示せと言われるなら、最大規模の鳥取小学校でも対応できないので2校になってしまう。30年後のことを見越すことは難しいが耐震補強工事等のことを含めて考えても1校というのが望ましいと思われる。1校にすべき。子どもの数がこんなに急激に減ることは想像できなかった。今後もこの様な状況が続くであろう。それなら2校にするよりも、1校にして2クラスにした方が子どものことを考えても良い。児童数の推移を見ると、何年か経ったら1校しかないだろう。(3)再配置後の学校の場所、現在の鳥取小学校用地の様な広大な土地を他で確保することは困難だと思うので、鳥取小

の用地を活用する方向で良いと思う。(4)再配置を進める上での条件、ア、校舎について、校舎については、現在の校舎の耐震診断の状況、また弥栄町内の小学校が築後30年近く経過することからも、増築することより新築をしていただきたい。イ、通学方法について、遠距離を徒歩通学し、学校に着いた頃には体力を消耗している様な事は避けるべきだが、あまり甘やかすこともどうか。具体的な内容はともかく、一定の整理をしていただきスクールバスの運行をお願いしたい。仮に徒歩で通学する場合、歩道が無く大変危険であり整備が必要であるし、自転車通学となる場合でも、自転車専用道路のような整備も必要である。ウ、学校名について、京丹後市第〇〇小学校という様な名称は解りにくいので、旧町名である弥栄という名が残っている以上、学校名に弥栄は入れていただきたい。エ、跡地の活用について、使わなくなった校舎や跡地の活用について、地域が活気づくような有効な活用をお願いしたい。学校施設が地域の避難場所になっている学校もあり、その点についても検討をお願いしたい。5、検討委員会への提言・要望等、この分科会での検討結果を尊重していただき、学校再配置の検討をお願いしたいと思います。以上です。

〈委員長〉

はいどうもありがとうございました。最後になりましたけれど久美浜町お願いします。

〈委員〉

失礼します。久美浜町学校再配置検討分科会の最終報告を見ていただきたいと思います。最終報告という事で、京丹後市の久美浜町は、現在小学校が7校、中学校が2校あります。以下省略させていただきます。分科会の開催の経過につきましては、委員数27人で第7回の分科会を行いました。分科会における議論なんですけど、全体的な意見といたしまして久美浜は面積が広いという事で、通学に関して再配置になるとどうなるんだろうという不安が多かったという事が言えます。それと再配置についての意見なんですけど、賛否はどちらともありました。その中で地域性を重視する意見もありましたし、あと少人数のクラスの良いところはどういう事かとか、悪いところはどういう事かとか、そういう事もみんな意見をいただきまして、そういう話が出る中で平成25年には小学校で複式学級が3クラス出来るという話になりまして、実際に複式学級というのは今も1クラスあるんですけど、学校に。父兄の意見を実際に聞いて来ようという事で、そういう意見を聞かせていただいてそれならどうした方がいいだろうという様な話し合いもしました。検討結果として、論議の到達点という事で中学校については今後の生徒数の推移や、子どもたちのことを考えると、課題はあるが、中学校を1校とした方が良いのではないかと、との意見が大半

であった。特に中心地に新設をするべきだ、通学についてはスクールバス等、交通手段を充実させてほしいという意見が強く出ていました。小学校についてですけれども、再配置について賛否両論あるが、児童数を考えていくと、統合もやむを得ないという意見が大半でありました。やむを得ないという意味はおそらく、小学校というものは地域の中で、地域性があって培われたという様な意見があった様に思われます。小学校・中学校を1校とし、小中一貫教育をかかげ、久美浜を先進地域としてはどうかという意見も分科会の後半に数多く意見が出まして、一番最後にはこの意見が多かったように思います。これからの人数を考えていくと、統合はやむを得ないのではないかと、今後の人数を考えると、2校で良いのではないかと、地域のことを考えると統合すべきではないという意見もありました。通学について、スクールバス等、交通手段を充実させること、という事になっています。検討委員会への提言・要望等については、検討委員会の答申に分科会での意見が反映されるような再配置案を検討していただきたいという事になっています。以上です。

〈委員長〉

はい、ありがとうございました。

それでは続きまして議事（2）の各町分科会の最終報告を踏まえまして委員によりまして検討・協議に入らせていただきます。各町検討分科会の報告を踏まえながら、まず初めに、まちづくり協議会の会長さん方の意見を聞きたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。順番はお任せを致します。3町につきましては、本日お配りさせていただいた状況でございまして、本日聞いていただいただけで多少ご迷惑をおかけしますがどうぞよろしくお願ひします。

〈委員〉

弥栄町です。今各町の分科会の最終報告をおうかがいした訳ですが、教育委員会の方は再編・再配置という事を考えておられるんですけれども、やはり再配置をするなら小学校1校という案もかなり各町ある訳ですね。中学も1校、そうすると各町やはり町単位でそういうのを考えていく時には、これは再配置でなしに、既存の施設を使うのではなしに新築という事も考えていかなければこの事が先にいかんかなという感じがします。それからもう一点はPTAの方や地域の方は通学に、やはり子どもたちが安心して安全な事を一番願っていると思うんです。そうするとやはりスクールバスでやるかという事になりますがそうすると非常に車の台数が必要になる。またそれが時間通りに運行出来るのかという面も今後の検討になるかなというふうなことを考えます。それから特に弥栄町の場合は耐震が、

もう30年ほど経ちますので、そういう事を考えるとやはりここにも出てますように、弥栄町として再配置をするなら小学校1校、中学校1校それはやはり弥栄町で場所を考えて、地域住民の方の意見を聞きながら新築という事にならへんかなというふうに考えております。今のところは以上です。

〈委員長〉

はい、ありがとうございました。

どなたでも結構ですのでお願いします。

〈委員〉

丹後町のまちづくり協議会の小倉と言います。やっぱり最終報告を聞きますと当初からみますと段々子どもの意見という事から、親の意見という感じの意見がかなり色濃く出てきているような面が多くあるようにも思います。私たちまちづくりの基本としましては、やっぱり子どもの事、勿論子どもの教育、小学校は小学校、中学校は中学校のグループで活動するという様なこともよく分かりますけれども、まちづくりという事になりますと、例えば都市計画を実施しますという様なことが出ていますが、その中において開発してどんどん発展させようというような地域もあれば、自然ゾーンとして残そうという計画も出ております。そういう中で学校のあり方もそういうものと一緒になって考えていく事になりますとまたちょっとどうかなという気もしますし、学校というものはまた特殊なものではないかなという、例えば旧6町が同じようなレベルで発展するという様なことは難しいでしょうけれども、あまり取り残されないように例えば周辺部から中央部へ中央部へという事で統合をされていくという事についてはよく考えていかなきゃいけないのかなと、やはり旧町単位という事で、旧町単位でのそれぞれの発展という事に取り組んで、今まちづくりの方でやっておりますから、学校というものもまちづくりの中で重要な1つでありますから考えていかなければいけないんじゃないかなというふうに思っております。以上です。

〈委員〉

網野町のまちづくりの松本です。今6町のそれぞれの検討結果を聞かせていただきまして、地域の特徴というのが非常に色濃く出た報告をいただいたなと感じております。やはり非常に多くの広い面積を抱えている町と比較的まとまった町との違いというのが顕著に出てきておると、だから峰山のように1校案、或いは弥栄のように1校、そして大宮についても既になされているので1校ないし2校という様な感じのご意見をいただいている訳で

す。中学校が2校あるところについては、地域が広がっておりますので、なかなかこれを1校にするという様なそういう観点ではまちづくりの観点から難しいのではないかなという様なことを感じながら聞かせていただいております。しかし、私自身はある程度の再編というのは、先ほど出ておりますように、小学校が複式学級になっても学校の機能がなかなか果たせなくなってきたという様な段階において、統廃合を諮っていくというそういう考え方というのが各町かなり出ておりましたので、そういう事を京丹後市として一遍にすかっと再編、統廃合という様なことは不可能というふうに思いますので、段階を経て、どうい様に統廃合をしていくのかという事についても考えていかなければならない、今後の課題であるというふうに思って聞かせていただいたという事でございます。以上です。

〈委員〉

久美浜ですが、全体に聞かせていただいております、原則として一番初めの提案の中で既存の校舎を活用しながら再配置を考えていこうというのが前提であります、その中で耐震補強をしていかないかということが出てくるぞという事が書いてあって、今ずっと聞かせて貰っていたら、耐震補強をしようと思ったら新築しかないといった答えが殆ど出ておったと、従って既存の校舎を活用しながら統廃合というのはちょっと不安なんではないかと新設と言うのがどうしてもやっぱり地域事情を見たり、地域の中心に設置をしようと思えば新築をせざるを得ないという意見の方が多かったのではないかなというふうに思います。中学校1校にしようという事はイコール小学校も1校に出来る可能性がある、中学校1校にするなら小学校も1校が可能だろうという様な結論になるかと思いますが、まず検討いただいた中で気になるのは教育長の方から言われました、まちづくりを中心とした考え方というふうに言われておりましたが、結果を聞かせて貰いますと、まず子どもたちの適正配置というのはどういう事かなという出発点から見ていただいておりますから皆さんのご意見というのは、それぞれ何回も論議をされて出た結果、結論でございますから、我々はそういう方向を信じると思いますか大事にしなければいけないと思っております。以上です。

〈委員〉

大変難しい問題だなと思いつつ聞かせていただいた中で、やはり子どもにとってなにが一番望ましいかという思いをしながら各町の検討結果を聞かせていただきました。やはりまちづくり委員会の方々からもご意見が出たように段階的に統廃合していく中で人数的な事を考えていくと1校案が望ましいかなと思ったり、いやいや小規模校が良いかなと思

ったりというふうに思うんですけどもやっぱりいろんなことを含めて、子どもにとって何がと思った時に1つの学校にした中での、小規模校の良さを、小規模校の様に子どもに目を配れる教育が可能ではないかなという様に思いをしながら聞かせて貰いました。峰山の中学校1校、小学校1校案の中でも、他の地域にアピール出来る特徴のある学校をと言う中で、久美浜もあったでしょうかね、やはり子どもが如何に意欲を出せるかという事を思う配置をできたらしていってもらえたらという思いをして、小規模クラスをつくってみたりとか、いろんな工夫が出来るのではないかな、その中でやっぱり子どもにとっては何が大事なかなと思って頭をぐるぐる廻らせて皆さんの意見を聞かせてもらったんですけども、やっぱり子どもにとって一番何が望ましいかという事を前提にしながら、通学の問題とかもありますし、大規模校であっても教育の目配りの出来る編成というものも可能ではないかなという思いもしたんですし、まちづくりの視点という事も考えると大規模校になっても可能ではないかなと、小学校だけが文化の発信基地ではない、またまちづくりの中には公民館活動もあることですし、その中で小学校、公民館と色々なことを考えながらまちづくりしていく中で、小学校の統廃合、再配置を考えていって貰っていただけたら良いのではないかなと思いました。支離滅裂ですけど今のところそんな考えです。また考えがうかんだらお話出来ると思います。失礼します。

〈副委員長〉

実はこの前、大宮の第一小学校で運動会が行われまして、いろいろとお話を聞いてますと街中のお子さん、父兄さんは少なく、善王寺、河辺、周枳というか周辺の方々の父兄の方々が積極参加されました。その結果車がですね駐車場がなくて道路に溢れて近所の方から相当な苦情が出たという事をちょっとおうかがいしまして、この間ある方が私のところに来られて峰山の街中も今限界集落だだという様なお話をされました。これからやっぱり都市計画の中で、今日、今の議論の中でもあったんですがやはりまちの形成も変わってくると思うんですね、その形の中で、今までは街中が形的にはそうだったんです、口大野もそうだったんですが、口大野という区があってこそという事があったんですが、今大宮町は口大野じゃなしに善王寺だとか河辺だとか周枳だとかいう周辺の方がどっちかという新しい子どもさんがおられる家族が多くなって来たという様なことで全く生活環境が時代と共に変わってきたという事も視野に入れておかないと、1校にした2校にしたそういう議論も良いですけど、先ほどまちづくりの観点という事で言われましたですけども、私もいろんなところでいろんな勉強をさせていただくんですが、第一小学校の運動会で車

が溢れて苦情が出たという事については顕著に出ているので、違う方面からもやはり考えておかないと新しく学校をつくるのであればやはり駐車場だとかいろんなことを考えた最善の方法というものをきちっと議論しておかないと、ただ学校だけここにつくれば良いというのじゃなくて、先ほど誰か言われましたんですが、地域づくりだとかいろんなコミュニティを学校とする訳ですので、そういう時にやはり新しい学校にするという事はいろんな問題が出てくるよという事を視野に入れて再配置というものを考えていかないと、本当にとんでもない方向になってしまうという事で、実はこの間、第一小学校の前の府道、そうですねよその家の軒先まで車が停まって家の人が出ようと思っても出られなかったのが警察に電話されて、そういう事を発見したという事なんですが、家族構成、生活環境があって周辺の新しい家族が増えた為に、街中だけでできていた学校というものが変わってきたという事が顕著に現れてきている現状だろうかなというふうに思いますので、今後まちづくり協議会の会長としてまちづくりをする中で、今、河辺の大きな農地があるという様なことを聞いていますが、やっぱりこれから新しくつくるならばこうなんだよという提言をこの中に是非とも入れてほしいなど、これからの災害、コミュニティ、地域づくりだとかいうもの、公民館活動というものをする中でやはり違う方面で重要な形が出てくるのではなかろうかと、私も廃止になった学校の地域の1人としてやはり跡地利用というのは、よほど地域の人達が頑張っていないと大変申し訳ないですけど、草ぺんぺんになりますし、これだけは言うておきます今私のところの小学校は全然使えません。それはなぜかと言いますと段々使わなくなりますので、そういう地域コミュニティを如何に持っていくかという事も大事なことでなかろうかなということをお聞かせいただいておりますので、以上です。

〈委員長〉

ありがとうございました。

それでは学識経験者なり或いはまちづくり協議会の皆さんのご意見をいただきました。あとそれでは9時30分ぐらいを目途にと思っておりますので、今の学識経験者なり或いはまちづくり協議会の方のご意見が出た訳ですので、後はどなたでも結構ですので活発な議論をしていきたいと思っておりますのでどなたからでも結構ですのでご意見をお願いしたいと思います。

ございませんか。はいどうぞ。

〈委員〉

数日前に静岡の掛川に勉強しに行くことがありまして、まちづくりの関係で行ったんですけれども、市長もかわられてたんですけれども、前市長がコンセプトがすごいある人で、すごいこだわりの、掛川というのはスローライフで有名でそれをきっかけに話を聞きに行っていたんですが、各所で教育の部分でも、市役所も4年前に建ったんだという事で市役所も見させて貰って、すごいコンセプトがあってやはりそういう様なコンセプトを持つのがこの場なんだろうなという事を僕はすごく感じて帰ってきました。皆さんの各町のご意見は多々あるんですけど本当に子どもたちの部分で、旧町で凸凹があって良いのかなと俺たちの町は1つにします、あれにしますこれにしますと言うのは良いのかなとある部分、教育長が言われた地域のことや村づくりの部分はあるんですがやはり何処か線引きしていくもので、適正規模なり何かがないと子どもたちに対する思いなり、やはりそこら辺はちゃんとやっていかないと地域の皆さんにもきつと訴えることは出来ないんだろうなと、僕は分科会に出させていただいているんで、何か金取り合戦みたいになっていっちゃったんですね。実は、あそこを直してほしい、いやあそこは1校にしたいから、じゃあ順番僕たちどこに来るんだろうね、そんな話の議論になりつつあるんですね。本当はそうではないだろう。でも掛川では全部で100人切ったら廃校になるという話を聞いて、勿体無いよねという話もあって勿体無いの部分じゃあ、住民が何をどうしていくんだ、子どもたちで関わってきたコミュニティの部分を今度違う面で地域おこしとそのコンセプトがこの前行ってすごく感じた点です。そういうものを含めてやはり一定的なコンセプトというものは、この再配置検討委員会で持つべきではなかろうかと、この中で凸凹感があるというのは、出ていても辛いなど、特に丹後町を見ますと本当に今の峰山の7百何十人と言っているその数字が限りなく違う訳ですね。規模の数字が丹後町は違うので、検討委員会で話を聞いているとどんどんどんどん落ち込んでいっちゃうんです。少しでも少なくとも未来があるという発想にさせていただきたいというのがあったんで是非皆さんもそこら辺を検討していただけるとありがたいなと思っています。以上です。

〈委員長〉

はい、ありがとうございました。はいどうぞ。

〈委員〉

今言われたことに大いに賛成です。どなたかもおっしゃったように6町に拘らないで、もう少し京丹後市の教育は何だというコンセプトを持ちながら、再配置を考えていくという事はまず大事だなと、という事は子どもにとってはどういう事が良いのか、まちづくり

はどういう事が良いのかをやっぱり考えて行って貰いたいという事が私もあります。それこそ口大野でも他所のことを言うんじゃないくて限界集落かなと、このあいだの選挙戦なんかを見ていると思ったりしたこともあったんですけども、京丹後市も日本にとっては過疎地という事になります。そういう意味で丹後町がそういうふうを感じるのではなくて京丹後市としての教育はどうあるべきかというのをまず考えてほしいと思いますね。再配置はその結果出てくるものではないかなと言葉足らずの中で付け足したいと思いました。

〈委員長〉

はい、ありがとうございました。

それぞれ地域で培われた伝統なり文化なりという事の中で学校というのは存続しており、逆にそのことが地域の良さというのか、皆さんで一番良い地域にするというのが一番大事ではないかなとそれぞれを束ねてしまうというのは、教育長さんがおっしゃっているように京丹後市は適正規模が何人だから何人の学校にするというのじゃなくて、それぞれの地域でやっぱり小規模校の良さを存分に発揮していただく学校があっても良いのではないかなと言うことで、それからもう少し切磋琢磨する場があったほうが良いかなという事もありますんで、それはそれで100%小規模校がだめで大規模校が良いという様なそんなことじゃなかろうとっております。やっぱり地域の皆さんが自分たちの学校なんだという意識をしっかりと持っていただけるような土壌を培った形での再配置が出来るのが私は一番良いのかなとっております。そんなことも含めてご意見をお願いします。

〈委員〉

この前、ちょっと話は違うんですが、過疎、限界集落というのを考える集いとかというのを立ち上げようというような話がありまして、上宇川、宇川地区と言うのがあってそこは過疎、限界という地区があって、その話のなかで大宮の方でも五十河というのが丁度、上宇川地区と同じくらいの人口だというふうに聞いております。また今の小学校の校区では大宮第三小学校と宇川小学校というのが良く似ているように思います。それと中学校で先ほどの橋でしたっけ網野のちょっと離れたようなところで、そこは限界集落かどうかは知りませんが、ちょっと位置的に良く似たような感じを受けておりまして、多分そういう特色あるところは、それなりの文化も持って来たんでしょうし、そういった点を見捨てることはできないなという事を思います。

〈委員長〉

他に何か意見ございますか。はいどうぞ。

〈委員〉

あの、私がこれを言うと終わりになるのかなというふうに思いますが、それぞれ皆さんが検討されて出されたお答えと言うのが、この論議の到達点というところでまとめてもらった意見というのはそれぞれの委員会が出した苦渋の結論だというふうに思います。相当苦しい思いをしながら論議をしていただいたという結論だと思いました。そういう事に対して敬意を表したいと思います。

〈委員長〉

他には何かありませんか。

ちょっと各町さんの代表でまとめをいただいているんですが、その後の意見の中で、親の意見がよく出ているという意見があったんですけど、その辺について各6町さんではやっぱり子どもさんのいる家庭の親ごさん等の意見をいただいてこんなことでしたという様な事があればちょっと出して、お聞かせいただければありがたいと思います。

〈委員〉

丹後町は7回やったんですけど、第7回の1ヶ月くらい前にPTAの方に学校の再配置は必要なのかどうかという事についてPTAの方から意見を集めました。学校の校長先生等にお願ひしまして、またPTAの役員さんにお願ひしまして本当に再配置は必要なのかいろんな意見を出して下さいという事を提案しました。第7回の時に皆さん持ち寄っていただきまして、どんな意見があるかなとこちらもわくわくしておったんですけども、ところが殆ど我々が話していたような、竹野小学校は統合するのが良いのかどうかの場合は殆ど1割程度の反対がありましたけれども、殆どが統合しようという事でありました。他の小学校の場合、豊栄の方も宇川の方も両方ありましてPTAの方も統合した方が良いという方もおられまして、子どもの将来を考えるならやはり少人数よりも大きいところに行っているようなクラブ活動を出来る方が良いと、宇川の方でもそういう意見が結構出ました。いやそうではなしに学校は小さい学校なりに頑張っているという様な意見もいろいろありました。我々がずっと協議して、出していた分科会の意見が殆ど上ってきたように思います。もっとこんな意見があるかなとかこんな意見があるかなと僕たちも物凄く期待しておった訳ですけども、宇川小学校は例えば1校にして間人小学校へ、中学校は統合して1校にするべきだという様な意見がかなり出るかなと思ってた訳ですけど、意外にそれは外れまして両極端の意見が半々ぐらい出ておりました。これはやっぱり意見を取ったというのは非常に良いことだと僕は思いまして、我々分科会の委員ばかりで話していてもあ

る程度いくと何時も両極端な意見になり賛成する人は賛成し、反対する人は反対すると言
う中で、まとめという事はできませんので両方言っていたら結構ですよという事で
いろいろと出していただきました。皆さんの意見をこれ以上吸い上げるという事は、分科
会のメンバーの意見は殆ど出ましたので、これではだめだという事でP T Aに問い合わ
せてはどうかという事でP T Aの方をお願いしました。再配置のここが一番山場だなと僕は
思いましてそれを期待しておった訳ですが、それ以上何も進展が見られなかったという事
が丹後町の場合ありました。

〈委員長〉

はい、どうもありがとうございました。

もう1点、皆さんの報告の中で複式学級というのは上の子どもさんにとってハンディが
あるのではないかなと、20人を限界で再配置というのがあるんですけど、例えば学校で
勉強している分には20人に拘らなくても、クラブをする上で問題があるのかなと、例え
ば姉妹校でクラブは何処かの学校と一緒に何時もするんだとか、そんな意見は無かったで
しょうか。

〈委員〉

クラブの問題はやはり他の学校まで行ってクラブして帰って来ると言うそういう事は無
理だと、環境的に無理なんだろうと、じゃあその車の部分とかスクールバスの関係で出
来ないだろうと、結局出来るのっていう話になると無理だろうという事が親は解ってい
て、例えば今の話、塾の問題とかそれを考えると親的にはリスクを背負わなければならない
ことになるという様なご意見はあったように思います。なかなか現実的には難しい問題
だと思います。宇川中学校は文化部が無いんです。議論の中でスポーツが出来る子は良い
んだけど辛いよね、という事が多々あった訳ですけども、できなくても頑張ることは大
切だしと言う方もおられてそれはそれで良いかなみたいな事になりました。

〈委員長〉

他にございませんでしょうか。はいどうぞ。

〈委員〉

今丹後町さんが言われたように網野からクラス20人というのを提案として出させてい
ただいたんですけど、網野の方でも中学校は橘と網野ですが橘には吹奏楽がない、そうい
う人数母体とか、スポーツクラブの方が優先してしまっただけで部活を網中と合併してやったら
どうかという、今言われたのと同じで、網野町でもやっぱり部活をしに網中へ行くんであ

れば、そのレベルになるんならやっぱり統合という様な事で、確かに橘でも部活の数も少ないし選択肢も少ない、ですけど選択肢の少ない中でそういう学校環境に対する、小学校についてもですけど子どもたちの順応性というのは非常にあるというところから親が考えている程子どもたちはそれほど感じていないと言う意見も出ておりましたので、大規模校、小規模校という事で子どもたちの環境、その辺の自分はずごい不利なところにいるとかいう様な子どもの意識は無いのかなと、親もそれを盛り立てているという事もあったりしてその中ではPTAを含めて親の力もかなり子どもたちの後押しをする中で、子どもたちもそれに応えていると言うのがある中で、ある面では小規模校の非常に良いところじゃないかなという事が出ておりました。あと出ておりましたのが、小規模校なら学校が分かれていて学校毎に児童会の会長がおりまして合併をすると、網野ですが小学校が6校ありまして一遍に6人の児童会会長が誕生する訳ですけどもそれをまとめてしまうといふとなかなかそういう事を経験できなくなるという事も出ておりましたのでやっぱりその子どもたちがそういう会の運営に参加するそういう事も大事だという、そういう事への人数的な経験を積むという事ができなくなるのはちょっと残念だなという事も網野の中では出ておりました。以上です。

〈委員長〉

はい、ありがとうございました。

他に、特にございませんでしょうか。今日はこの程度とさせていただきたいと思います。

従いまして最終の報告書をいただきましたのでこれからこの検討委員会は本格的な検討に入りたいと思います。

次期開催の日時でございますが6月の25日か26日ぐらいでと思っておりますが、いかがでしょうか。25日が水曜日で26日が木曜日です。どちらでもよろしいでしょうか。特にご都合が悪い人はおられませんでしょうか。おられましたら教えて下さい。

〈委員〉

勝手を言わせて貰うと木曜日の方がありがたいです。

〈委員長〉

はい、じゃあ26日という事で皆さんいかがですか。よろしいですか。じゃあ次回は6月の26日木曜日、時間につきましては7時30分開始で、何時から開始がよろしいですか。遅くなると帰る方が遠いので私はちょっと気になるんですが。何時がよろしいですか。

〈委員〉

だいたいどの会議も7時30分ですけれども。

〈委員長〉

はい時間は7時30分で、場所はここで良いですか、場所は今のところここでいう事でいかさせていただきます。ではそういう事で今日の会議はこれで終りたいと思います。どうも皆さんご苦労様でございました。

〈教育次長〉

それでは、長時間ありがとうございました。以上をもちまして、第4回の京丹後市学校再配置検討委員会を終了させていただきます。

閉会に際しまして、大木副委員長様、閉会のご挨拶をよろしくお願い致します。

〈副委員長〉

分科会の皆様がたには、本当に数回に渡りましてまた十数回という会議を重ねまして、慎重審議またいろんな状況の中で議論を重ねていただきありがとうございました。今日の会議にもいろんな意見が出ておりましたが、私も先ほど言いましたように合併に加わった1人として、今日先ほども親のことを言われましたんですが、子どもたちは意外と冷静なんです。このことについては順応性がすごいあるんですよ。私たちが親の方が盛り上がってしまって反対をしたりいろんなことを言ったりして、子どもたちはいざ蓋を開けてみて統合になって第一小学校へ行ったら、そんな大きな問題は何にも無かった。親だけが怒ったりしていたという様な事を私は覚えておりまして、あの時言っていたことが恥ずかしいなという事で自分の心の中でもちょっと残っておるんですが、やはり子どもを1つの中心とした議論を含めて、常に視野に入れながら今後審議を進めてほしいというふうに思います。先程も言いましたが本当に地域だとか集落だとか町だとかいうのは変わってきましたので、そして新しい家族が一杯増えています。旧町というのが、旧町の機能が発揮していない町がある訳ですので新しい形、先ほど言いました様に10人いたら旧町が4～5人で後は新しい家族の方々が来ておられるという様になっておると思いますので、その点も含めて、私も端の方に住んでいた1人だったんですけれども、やはり町の人達と話せばまた違う考えもこう出てくるという事を思いますので、どうか皆様方におかれましては、子どもさんという、親という立場もあるんですが、子どもたちの事を、やっぱり子どもたちの環境という事を優先的に考えてやってほしいなというふうに思いますのでこれからの議論の中でそれを視野に入れながらご議論いただけたらなというふうに思っております。夜分大変お疲れのところ、また今日もいろいろとご議論いただきましてありがとうございます。

ました。今後共ひとつよろしくお願ひ致します。

〈教育次長〉

ありがとうございました。それでは、以上で散会させていただきます。どうぞお気を付けてお帰り下さい。

〈閉会 午後9時35分〉

※次回開催日 平成20年6月26日(木) 午後7時30分～(予定)
京丹後市役所 峰山庁舎 2階 201.202.203 会議室